

(概要版)

小学校音楽科における思いをもって 音楽づくりをする児童の育成

— 音楽を特徴付けている要素の働きと自然のイメージをつないで —

長期研修Ⅱ 研修員 反町 恭子

音楽科の目標は

生きる力の育成に欠かすことのできない「**豊かな情操を養う**」こと

現状の課題

- 感性を高め、思考・判断し、表現する力の育成
- 音や音楽を知覚し、感性を働かせて感じることの重視
- 創作と鑑賞の充実

本県の音楽教育に携わる
小学校教諭

Q 音楽の授業で課題性を
感じている領域は？

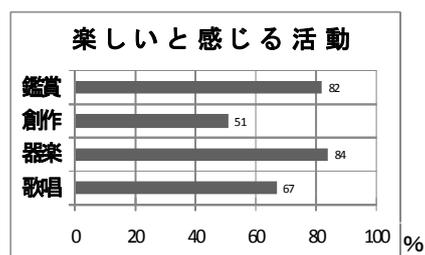
※58%の教諭が創作の領域に課題

- 「題材の設定の仕方」
- 「時間が足りない」
- 「授業の組み立て方」
- 「記譜のさせ方」
- 「積み重ねの必要性」

※調査対象71人

児童の実態

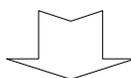
Q 楽しいと感じる授業は？



調査対象 6学年児童61人



楽しさを実感しながら、音楽をつくっていく授業の工夫をしたい！



「音楽づくり」の活動において

音をつくることへの様々な思いをもつことができるような方法を探る

鑑賞活動で曲の感じと自然の様子をつなぐ
自然体験活動での体験を生かし自然のイメージを膨らませる

工夫する手だて

音楽づくりヒントカード

イメージマップ

音楽の設計図

自然体験活動から得られたイメージを膨らませて音楽を組み立てる学習過程

自分にとって価値のあるものをつくる 思考・判断しながらつくる 友達の音とかかわり合いながらつくる

一人一人の思いを生かしながらグループでつくり上げていく過程

① イメージマップを基に一人一人の思いを出し合いグループのテーマを決める。

尾瀬のどんな様子を音で表現したいかという思いをグループの中で出し合い、思いを共有する。その思いが生きるように尾瀬のイメージを話し合い、グループで1枚の【尾瀬イメージマップ】を作成し、グループのテーマを決める。

イメージマップが生かされます



グループでイメージマップを作成

思い1

鳥の声をつくりたい 水の流れを表現したい

発想

② グループの中で一人一人が即興的に思いを表現する。

「鳥のさえずりをリコーダーで表現する」「水の音を鉄琴で表現する」というような一人一人の思いを即興的に表現し、図形や言葉で書き留めておく。

音楽づくりヒントカードが生かされます



即興的に表現

思い2

鉄琴で水の音をつくってみたよ この楽器はどうか

生かす

③ 一人一人の即興的な表現をどのように重ねていくかなど考えながら音楽の設計図を作成する。

見通しをもって音楽づくりができるように【音楽の設計図】を作成する。一人一人の思いを即興的に表現した音を「どこで誰がどのように表現するか」などを設計図として組み立てる。この【音楽の設計図】はグループで1枚とし、②で作成した図形楽譜を付箋紙に書き、付け足しや書き直しが容易にできるようにする。

音楽の設計図を組み立てます



設計図

思い3

ここは一人ずつ演奏しよう 全員で合わせよう 鳥が会話するように二人で合わせよう

創造

④ グループの中で試行錯誤しながらつくっていく。

設計図を基にグループでつくっていく。グループの中でアドバイスし合いながらいろいろ試してみる活動を繰り返し、音楽を練り上げていく。その際工夫・改善したところは設計図に書き込んでいくようにする。

思い4

何回か繰り返した方がいいね 奏法を変えたらどうか

表現



グループでつくっていく

⑤ グループの中で工夫する。

表現を工夫していく過程では中間発表を取り入れる。自分たちの思いをほかのグループの人に言葉で伝えて演奏し、「よかった点や工夫する点」をアドバイスしてもらい相互交流を図る。そして、イメージに合ったよりよい表現になるように工夫する。

思い5

速さはどうかな 強弱はどうかな バランスはどうかな

工夫



中間発表

⑥ 完成した音楽を発表しクラス全体で聴き合う。

中間発表を受けて「どんなところを工夫したか」を言葉で伝えて演奏する。また「どんな観点で聴くか」を意識して聴く活動を通して、お互いの音楽のよさを認め合うようにする。「感想カード」に各グループの工夫されていたことを書き、感想を述べたり、内容をグループごとに掲示し、充実感を味わえるようにする。

響がきれいになっているな 尾瀬の自然が伝わってきたな

認め合う



よかったところを掲示

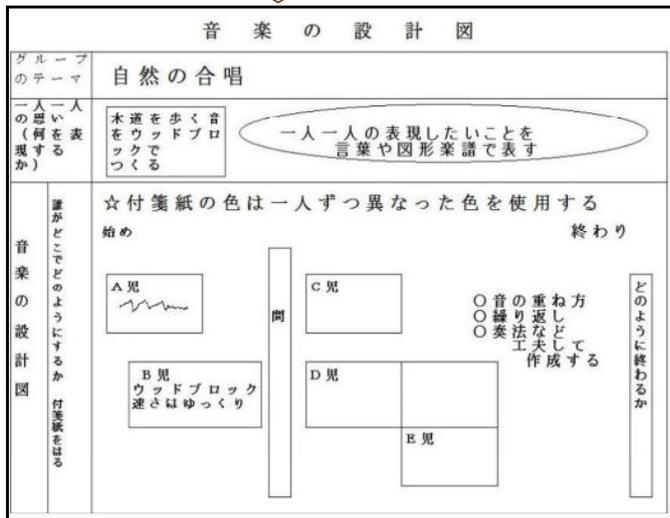


本発表を聴き合う

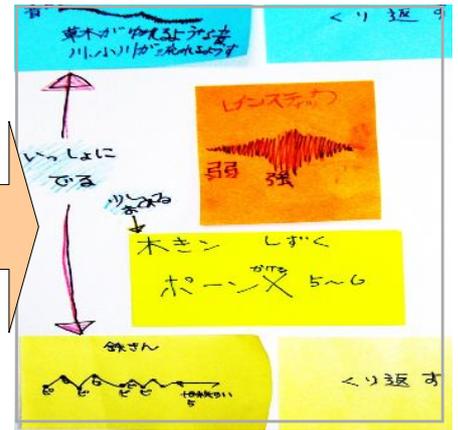
グループごとにテーマを決め、試行錯誤しながら音楽をつくっていく様子が見られました。

テーマ (抜粋)

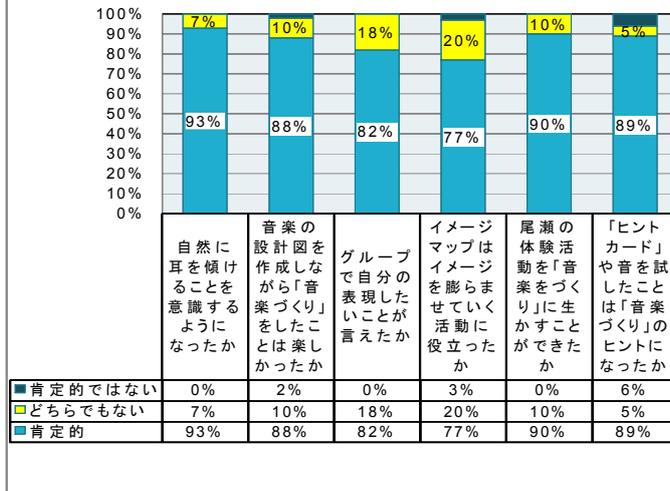
- 自然いっぱいさわやかな尾瀬
- 尾瀬の自然の音色と季節の音
- 物語風 歩く・鳥・川・風・日光・水
- きらきらしている秋の尾瀬
風・光・木道・日光・水
- 秋の尾瀬 どんぐり・風・地下水・川



一人一人が付箋紙に自分の表現したい自然の音を図形楽譜に書いてつくりました。



実践授業後の意識調査の結果



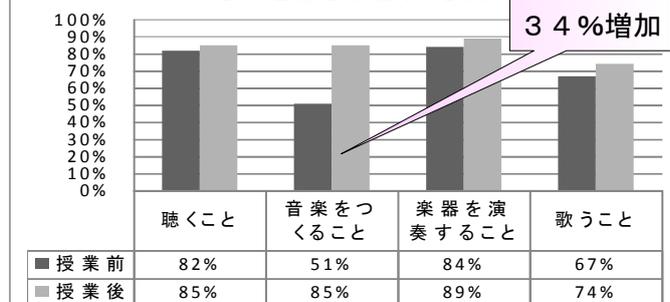
児童が授業後に記入した振り返りカードから

- 友達と協力することに気付いた。
- 風のような表現をしたと思った。
- きれいな音にしたいと思った。
- 音の重なりできれいな音ができている。
- 風だけでなく魚のはねる音を友達と一緒に考えた。
- 途中で楽器を変えてイメージを変えることを工夫した。

まとめ

- 自然の音とイメージをつないでグループで音を工夫したことは、楽しさを実感しながら思いをもって音楽づくりをすることができた。
- 音楽の設計図を「音の重ね方」や「時間的な流れ」を考えて音を工夫したことは、新学習指導要領の「縦と横の音の仕組み」へとつながると考える。
- 「旋律的なまとまりがあるのもっとよい」と感じたことから「音から音楽へと構成すること」の指導の工夫を図りたいと考える。
- 低学年から計画的に自然や身の回りの音に耳を傾けたり、即興的に音で遊ぶ活動を取り入れたりして音楽づくりを中学校での「音環境」の学習へとつないでいきたい。

楽しいと感じる音楽活動



問い合わせ先

群馬県総合教育センター

係担当：高校教育研究係

0270-26-9214 (直通)